2026年10月30日

各　　位

会 社 名　岩塚製菓株式会社
代表者名　代表取締役社長　　槇　大介
（コード番号 2221　東証スタンダード市場）
問合せ先　取締役経営管理本部長
竹部雅伸
（TEL：0258－92－4111）

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2026年５月12日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．業績予想の修正について

連結業績予想数値の修正

2027年３月期第２四半期（2026年４月１日～2026年９月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	14,500	50	1,500	1,000	97円48銭
今回発表予想（B）	14,880	△260	1,100	770	75円72銭
増減額（B－A）	380	△310	△400	△230	
増減率（％）	2.6	－	△26.7	△23.0	
(ご参考)前期第２四半期実績(2026年３月期第２四半期)	13,582	156	2,116	1,498	145円37銭

2027年３月期通期（2026年４月１日～2027年３月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	30,600	300	1,900	1,300	126円72銭
今回発表予想（B）	30,600	300	1,700	1,150	113円09銭
増減額（B－A）	－	－	△200	△150	
増減率（％）	－	－	△10.5	△11.5	
(ご参考)前期実績(2026年３月期)	28,848	867	2,880	2,032	197円62銭

２．修正理由

米菓業界では、価格改定の浸透等により売上高は前年を上回って推移している模様でありますが、物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まりなどから販売数量は伸び悩んでおります。また、原料米価格の高止まりに加え、包装資材やエネルギー価格の上昇など、引き続き厳しい状況で推移しております。

このような状況下において、当社では主力商品（TOP6＋2）への集中戦略を継続し、主力ブランドの販売拡大および認知度向上に取り組んでまいりました。その結果、当連結会計年度第 1 四半期の売上高は 75 億 19 百万円(前年比 105.6%)と伸長しましたが、損益面ではほぼ倍増した原料米コストの上昇が製造原価に影響し営業損益は△40 百万円と減益となりました。

第２四半期においても、引き続き主力商品の販売に注力して既存ブランドの品ぞろえ拡充等に取り組み、当中間連結会計期間全体の売上高は前年を上回りました。しかし、売上増による増益要因も原料米価格の大幅な上昇を吸収するまでには至らず、損益面では後退を余儀なくされました。この結果、現時点における中間連結会計期間の業績は、売上高 148 億 80 百万円(前年比 109.6%)、営業損益△２億 60 百万円(前年度は１億 56 百万円)となる見通しにあります。また、同期間の経常利益は係る営業損益の修正に加え当社が株式を保有している WANT WANT CHINA HOLDINGS LIMITED. の期末配当金 12 億 81 百万円が当初見込みを下回ったことから 11 億円に予想額を修正、親会社株式に帰属する純利益は７億 70 百万円と見込んでおります。

今後につきましては、第３四半期が米菓需要のトップシーズンとなるなか、プロモーション施策など主力商品の販売活動を一層強化徹底して売上高の確保を図るとともに、損益面では、価格改定の実施に加え、生産効率の向上やコスト削減施策を継続して推進し、収益力の改善に努めてまいります。このため、通期の売上高および営業利益につきましては期初予想の達成を目指してまいります。なお、通期の経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、受取配当金の実績を踏まえ、上記のとおり業績予想を修正いたします。

※ 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以　上